

令和元年度

事業報告書

自 平成31年4月1日

至 令和2年3月31日

神奈川県厚木市中町3丁目6番17号

公益財団法人健康予防医学財団

1. 概況

1-1 受診者数の推移

公益財団法人健康予防医学財団（以下当財団）は、平成 23 年 4 月に移行認定を受けた。当期は第 9 期に当たる。

令和元年度（平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日）の年間受診者数は、前事業年度比 113.6%の 32,320 人だった。内訳をみると、人間ドックが前年比 103.7%の 5,818 人と受診者数が増加した。また、生活習慣病健診も前年比 122.8%の 11,556 人と増加した。

	平成 30 年度	令和元年度	前年比
受診者数	28,440	32,320	113.6%
人間ドック	5,609	5,818	103.7%
生活習慣病	9,410	11,556	122.8%
定期健診・その他	12,075	13,393	122.8%
婦人科検診	1,000	995	99.5%
市町村検診	346	558	161.2%

（単位：人）

健康診断の需要の高まりを受け、平成 29 年度にフロアを拡大したことで、令和元年度も受診者数の増加に対し、安全かつ正確に検査を実施することができ、広く県民に対して受診機会を提供することができた。

1-2 売上規模と経費

令和元年度の売上は、前年度比 114.1%の約 7 億 3600 万円となった。総合健診（人間ドック）の売上は前年度比約 104.5%の約 2 億 5200 万円で、一般健診の売上は前年度比約 119.4%の約 4 億 6000 万円だった。保険診療の売上は前年度比 134.1%の 942 万円となった。

受診者数の増加により、令和元年度の売上は増加、経費についても売上増加率に対し比例した増加であるが、次年度も引き続き、適正化を図っていく。

2. 健診業務関連部分

2-1 精度管理の状況

日本総合健診医学会の指導のもと、本年度も胸部 X 線や心電図、生化学検査の精度が正常かをチェックした。実施日と結果は以下の通り。

実施機関	実施月	実施内容	結果
日本総合健診医学会	平成 31 年 2 月	胸部 X 線精度調査 心電図精度調査	精度管理良好 精度管理良好
	平成 31 年 4 月	生化学精度調査 血球計算精度調査 尿一般精度調査	精度管理良好 精度管理良好 精度管理良好
	令和元年 7 月	生化学精度調査 血球計算精度調査 便潜血精度調査	精度管理良好 精度管理良好 精度管理良好
	令和元年 9 月	生化学精度調査 血球計算精度調査 尿一般精度調査	精度管理良好 精度管理良好 精度管理良好

2-2 職員の状況

令和 2 年 3 月 31 日現在の職員構成は以下の通り。

職種		人数	摘要
医師：内科	常勤	1	統括院長
：内科	常勤	1	院長
：内視鏡専門医	常勤	1	
：内科	常勤	1	
：内科	非常勤	1	毎週木曜日土曜日勤務
：内科	非常勤	1	毎週土曜日勤務
：産婦人科	非常勤	1	毎週月曜日勤務
：産婦人科	非常勤	1	毎週火曜日木曜日勤務
：産婦人科	非常勤	1	毎週水曜日勤務
：産婦人科	非常勤	1	毎週木曜日勤務
：産婦人科	非常勤	1	毎週金曜日勤務
：内視鏡専門医	非常勤	1	毎週月曜日水曜日金曜日勤務
：内視鏡専門医	非常勤	1	毎週火曜日勤務
：内視鏡専門医	非常勤	1	毎週土曜日勤務
：内視鏡専門医	非常勤	1	隔週土曜日勤務
：放射線	非常勤	1	毎週火曜日勤務
：放射線	非常勤	1	毎週木曜日勤務

看護師	常勤	9	
看護師	非常勤	6	指定日に勤務
診療放射線技師	常勤	3	
診療放射線技師	非常勤	3	指定日に勤務
臨床検査技師	常勤	6	
臨床検査技師	非常勤	8	指定日に勤務
管理栄養士	常勤	1	
保健師	常勤	1	
看護助手	常勤	2	
看護助手	非常勤	4	指定日に勤務
事務職員	常勤	2 3	
事務職員	非常勤	3	指定日に勤務
事務局員	常勤	2	

役員（理事、監事）の状況

役職	氏名	現職
理事長	横須賀 浩二	ヘルスケアクリニック厚木 理事長
副理事長	斐 英洙	ヘルスケアクリニック厚木 統括院長
専務理事	武本 吉功	株式会社バルコーポレーション 代表取締役
常務理事	横田 春樹	ヘルスケアクリニック厚木 医療部長
理事	成澤 勉	ヘルスケアクリニック厚木 事務長
理事	神戸 義人	ヘルスケアクリニック厚木 院長
理事	川原 輝久	

監事	西ノ内 彰	税理士法人 TM 総合事務所
----	-------	----------------

2-3 総合判定の割合

令和元年度の健診結果の総合判定の割合は、A判定が3.4%、B判定が3.6%、C判定が31.7%となった。D～F判定が全体の61.2%と過半数を占めることから、受診者の健康状況の改善をいかにして進めていくのかが重要となっている。

C判定及びD判定が全体の78.2%となることから、未病の段階にいる受診者がかなり多いことが伺えた。今後、これらの層を中心に、保健指導の実施やイベントの企画や情報の発信を行い、さらなる市民の健康増進に注力していく。

令和元年度総合判定	人数	割合
A	1,097	3.4%
B	1,161	3.6%
C	10,179	31.7%
D	14,898	46.5%
E	48	0.1%
F	4,685	14.6%

3. 健康知識普及業務関連部分

3-1 特定保健指導

令和元年度の特定保健指導における初回面談実施件数は、積極的支援 147 件（昨年度 99 件）、動機付け支援 132 件（昨年度 84 件）で合計 279 件（昨年度 219 件）。昨年度対比で 127.3%と増加となった。特定保健指導に関しては全国健康保険協会の調査では医療費節減の効果があること、国立循環器病研究センターの研究ではメタボリックシンドロームのリスク軽減が科学的に証明されている。特定保健指導に参加することでの効果を踏まえ、受診勧奨対象者も含めて情報提供を強化し、支援実施者を引き続き増加できるように改善していく。

保健指導内訳		令和元年度
積極的支援	個別契約	101 件
	その他契約	46 件
動機付	個別契約	92 件
	その他契約	40 件

【参考 保健指導を受けた人の感想】

■積極的支援

① 50代 男性

（結果） 体重-6.9 kg 腹囲-8.0 cm

（コメント）

体が疲れやすかったり、運動能力が低下しているように感じるのは加齢のためと思って

いたが、生活習慣によるものだと気づいた。

体調がよくなった。(胃痛がなくなった、だるいと感じることが減った)

② 40代 男性

(結果) 体重-8.2 cm 腹囲-8.0 cm

(コメント)

やろうと思えばできるということが分かった。

体重が減り、体が軽くなった。動きやすくなった。足の爪を切るときに楽になった。

③ 40代 女性

(結果) 体重-3.8 kg 腹囲-3.5 cm

(コメント)

食生活を見直したり、ストレッチなど体を気にかけるようになった。

■動機付け支援

① 40代 男性

(結果) 体重-3.2 kg 腹囲-9 cm

(コメント)

食事量、選び方は常に意識できるようになった。

② 50代 女性

(結果) 体重-3.0 kg 腹囲-7.5 cm

(コメント)

食事は元々濃い味付けが苦手ではありましたが、和食には結構糖分、塩分が含まれていることに気付き、薄味にしてご飯の量を少なくした。今回は色々と考える機会を下さってありがとうございました。耳の痛い指摘ばかりでしたが、「いつか始めよう、なんとかなるだろう」が空論にならず、実行に移すことができた。引き続き頑張ります。

3-2 市民向け無料勉強会・セミナー

1. JMS (ジャパンマンモグラフィ・サンデー)

(令和元年10月20日 日曜日 8:15~15:00)

10月に開催したジャパン・マンモグラフィ・サンデーは、NPO法人J.POSHが推進する、働く女性を対象とした乳がん検診の受診勧奨イベント。血圧や体脂肪測定の有料開放。

3-3 啓発活動

1. 疾患別リーフレット事業

健康診断で得られた情報を分析し、発症率の高い疾患 5 種を抽出。抽出した疾患の啓発リーフレットを作成。自治体、企業、医療機関に配布。

2. 検査ガイドブック事業

一般的に健診施設で行われている検査項目に関するガイドブックを作成。検査の目的、基準値、異常値が出た際に考えうる症状や病名、今後のアドバイスなどを分かりやすく記載。検査の内容や意味を知っていただくことで、健康意識が変わり病気の早期発見、早期治療につなげていくことが目的。自治体、企業、医療機関に配布。

3. AI による健診結果解析システム導入

AI による診断結果解析システムを導入。保健指導を実施していますが、このシステムを使うことで、より精緻な生活習慣改善指導や将来の疾病発生予測をし、パーソナライズされた健診結果が導き出すことができ、効果的な改善情報の提供が可能となる。令和元年 2 月～3 月のテスト運用を経て、次年度は本格的に運用開始。細やかな改善指導や支援を行い、行動変容を促すことで予防医学の観点で大きな効果が見込まれる。

4. 検査機器の技術開発への協力

2017 年に一般女性 1,500 名を対象におこなわれたアンケートではマンモグラフィ検査を受けていない理由として、マンモグラフィ測定時の胸の圧迫により感じる痛みや不快感が上位に入っており、乳がん検診の受診率が伸び悩む原因になっています。これに対して検査機器メーカーが圧迫により感じる痛みや不快感を軽減する機能を開発。当財団にてテスト運用を行い、収集したデータから実用レベルにするためのフィードバックに協力。検査機器の改善が行われることで受診者が快適に検査を受けることができ、受診率向上にもつながるので、今後も検査機器メーカーの技術開発に協力していく。

以上